



↑かっこいいばんだい山



MANABERU BANDAISAN  
SPRING/SUMMER

心踊り、心揺るがす  
学びの山

教科書には書いていない。参考書にも載っていない。  
もしかしたら、先生や親も、教えることができない。  
そこに行かなければ、そこで体験しなければ得られない。  
ぎゅっと空気を吸い、水と戯れ、傍の友と言葉を交わし、競い合い、  
腹の底から笑い、坂を駆け上がり、風の音や鳥の鳴く声に耳を澄ます。  
そうして体の芯に眠っている感覚を、目覚めさせていく。

磐梯山。ここには、四季折々の美しい表情があるだけではない。  
水や大地と、体を使って戯れることの愉悅。  
味わったことのないような滋味深い大地の恵み。  
時に牙を剥く強大な大地の力によって刻まれた歴史。  
頭も体も心も、限界まで使い尽くして味わう。

深く土を耕し、奥深く養分を届けるように、  
その先の、もっと深いところへ、ぎゅっと手を伸ばしていく。  
5年後、10年後まで、じわじわと力を発揮できるように、  
ここにしかない「学び」を得て欲しい。



私は、子供たちを連れて、磐梯山へと車を走らせた。

／ 教えてくれた人 ／

NPO法人 ばんだい2000



サイクリング  
インストラクター

野田文武 さん

裏磐梯に住んでいると、自分は自然の中で生かされているんだと実感できる場所がたくさんあります。皆さんに感じて欲しいのも同じ感覚かもしれませんね。裏磐梯には、車のドライブコースだけでなく、自然の中を駆け巡るサイクリングのコースがたくさんあります。アスファルトだけでなく、湖のそばにまで入ることができるので、自然をより身近に感じることができます。大事なのはやはり安全です。安全なサイクリングをして初めて学べるわけですから、しっかりとヘルメットやガードをつけて安全に楽しんで下さい。遠くまで気軽に行けるのも自転車の良さですが、気軽に止まれることも利点です。裏磐梯の風景をじっくりと観察してみてください。

## 磐梯山での パラグライダー体験



磐梯山エリアでは、パラグライダーも体験できます。サイクルツーリングにプラスして、空からの風景を楽しむのも一興。国立公園にも指定されている磐梯山からパラグライダーで飛び立ち、磐梯山の大パノラマや猪苗代湖の景色を楽しむことができます。ベテランのインストラクターが指導しますので、初心者や子どもたちでも安心して体験フライトやタンデムパラグライダーが体験できます。空からの景色はまた格別。自転車が「鉄の目」なら、パラグライダーは「鳥の目」。複数の見え方、アングルを体験することで、見え方次第で変わる自然の豊かさや、アングルを変えて物事を捉えることの重要性を学ぶことができます。



上：裏磐梯はサイクリングロードが整備されていますが、土や石、草木の存在を感じて走り回れるオフロードが子どもたちに人気です。

中：普段は感じられない鳥の声、風の音、草の匂い。五感をめいっぱい使うことで、子どもたちの意欲や感性が引き出されていきます。

下：山、湖、川。その成り立ちを学びながらのサイクリングも一興。ただ美しいだけではなく、そこに「学び」があるのが磐梯山です。



## 五感を使って 風景を捉える

自転車にならいつも乗ってる。駅から家まで、家から友達の家まで。でも、ぼくが住む町は人がいっぱい。車もたくさん走っているから、思い切りペダルをこぐことはそんなにない。こんなに人が少ないところご自転車に乗るのは、初めてかもしれない。

ゴツゴツした道。水たまり。パキパキと折れる木の枝。体が揺れて風が気持ち良くて、自分の体が自転車と一緒に変わったような感じがして。今までぼくが乗っていた自転車は、一本なんだったんだろう、ってくらい、気持ちがいい。

今までの自転車は、どこかへ移動するための道具だった。でもここは違う。気になるものを見つけたらすぐに降りられる。歩いたらすぐく遠いところや、車では入れない道でも入れる。流れていく景色や空気の匂い、色々なものが、鮮やかに目に飛び込んでくる。自転車で乗って坂を下ると、ほんとに風に変わったみたいだ。

木と木の間から曾根湖の水面や裏磐梯が見えた。今まで見たことのない葉っぱや昆虫も見つけた。ふと思った。ぼくは今までどれほどの風景を見逃してきたんだろうって。ここには新しい発見ばかりだ。ただ自転車で乗ってるだけ、なのに。

／ 教えてくれた人 ／

## もくもく自然塾ガイドセンター



インストラクター

渡邊 亮 さん

カヌーの面白さは、手漕ぎボートにはない不安定感やドキドキ感です。もちろん転覆する可能性もあります。でも、ガイドと一緒にあれば、そのスリルが安全で楽しい体験へと変わります。私たちはカヌーの操作方法などの指導ができる福島県内で唯一の日本カヌー連盟公認スクールです。5名の公認指導員が所属しており、緊急時の対応ができるファーストエイド資格を持ったガイドが指導を担当しますので、どうぞ安心してご参加ください。また、曾原湖は裏磐梯のなかでもっとも静かで波も立たない湖なので、カヌー体験にはぴったりです。アウトドアに潜む危険を知ること、自然の本来の楽しさや醍醐味を味わって頂ければと思います。

## 裏磐梯 リバートレッキング



大小様々な湖があり、たくさんの川が流れこむ裏磐梯では、今、リバートレッキングが人気。リバートレッキングとは、ウェットスーツを着て渓谷に入り、沢や水に入ったりしながら歩いて上っていくこと。川の源流を探検したり、川の流れをダイレクトに味わったり、橋の下をくぐってみたりと、裏磐梯の大自然のなかを「冒険」できます。裏磐梯の特徴は、水の流れの強さ、速さ、そして肌を刺すような冷たさを全身で体感できること。川で遊ぶことが少なくなった最近の子供たちに、川の魅力も怖さも、同時に楽しんでもらうことができます。カヌーもリバートレッキングも共通するのは自然との対峙。遅しく生き抜く力が育れます。



上：カヌーに乗る前にはしっかりと漕ぎ方のレクチャーを受けます。危険を学んでこそそのネイチャーアクティビティ。

中：子どもたちだけでペアを組んでのカヌー。動きをシンクロさせて船体を動かすことで、協調することの大切さを体感していきます。

下：思い通りにならない自然が相手だから、子どもたちは真剣。普段の遊びのなかでは見られない表情が見られます。

今度は風と水の流れを感じて漕いでみた。さっきよりも力を入れなくてもカヌーが動いていく。余裕ができて、おしゃべりしたり、ゆっくり景色を見れるようになった。湖が私のことを受け入れてくれた気がして、ちょっとだけうれしくなった。

進まなくて、カヌーがいうことをきいてくれなかったんだ。

私は風と水の流れを無視していたんだ。だから一生懸命漕いでもうまくいって、全然自分の思い通りにはいかない。でも、先生が「風が吹く方向や、湖の水の流れを見てみるのが大事だよ」と教えてくれた。

水も風もカヌーも、全然自分の思い通りにはいかない。でも、先生が「風が吹く方向や、湖の水の流れを見てみるのが大事だよ」と教えてくれた。

湖の中に入ったことはない。カヌーは初めて。でも、入る前にちゃんと漕ぎ方から教えてもらったから、案外、すぐに乗ることができた。「右、左、右、左」と声を合わせて漕ぎ始めると、すーっと動いて、少しずつ景色が変わっていく。

自然の揺らぎに  
身を委ねる

リバートレッキング

×

カヌー



／ 教えてくれた人 ／

## 鈴木農園 磐梯セクション



農家

鈴木翼 さん

収穫体験は子どもたちに遊んでもらっている感じですね。普段1人で野菜を作っていると結構孤独で、遊びに来てくれた子どもたちをみると、すごいなあって思います。なぜ収穫体験をしてもらいたいかといえば、ひとつひとつの食品に作り手がいることを知ってもらいたいからです。当たり前のように食べている食材が、どんな思いで作られているのかを知ってもらうことで、食べ物を大事に食べるきっかけになるんじゃないかと。大切にしていることは手抜きせずに清潔に作ること。トマトの木1本ごとにハサミを消毒したりして、病害虫を食い止めて、このトマトなら安心して食べられると思ってもらえるような畑づくりをしていきたいですね。



上：自分の手で作物に触れながらの収穫体験。食の成り立ちを学ぶことは命を頂くことの大切さを知ることにつながります。

中：真っ赤に実ったトマト。磐梯の地下水を汲み上げ、丁寧に旨味を引き出しながら育てられています。

下：トマトを頭に乘せてポーズ！自然体験に食のプログラムを組み合わせることで、子どもたちの学ぶ意欲が持続します。

## ブルーベリー 収穫体験



磐梯山エリアにある複数の農園ではブルーベリーの収穫体験をすることができます。土づくりにこだわった農法で農場が作られており、その広大な畑に植えられたブルーベリーは新鮮そのもの。一粒一粒に栄養とおいしさが詰まっています。磐梯山を背に、土の匂いを嗅ぎながら、畑で味わうブルーベリーは格別です。美味しいブルーベリーの見分け方なども教えてもらえます。収穫したブルーベリーを使ったジャム作りや、ピザ窯でのピザ焼き体験など、食に関する体験プログラムが充実。畑の土の上で自分で収穫するからこそ味わえる満足感。思い出に残る味を、磐梯山の麓で体験して下さい。  
写真は宇川ブルーベリー園。

トマト収穫体験

×

ブルーベリー収穫体験

## 高原の恵みを 体で味わう

ハウスに入ると暖かくて温気があった。トマトが呼吸してるんだ。葉っぱからも茎からも細いトゲトゲのような毛が伸びていて、空気から水分や養分を吸おうとしている。トマトは動かないけど、一生懸命生きてるんだなって思った。

トマトはどれもキラキラして、とても柔らかくて赤ちゃんのほっぺみたい。大きくて赤いトマトをそごご食べてみた。皮は薄くて、噛んだとたん、皮が破れて果汁が口の中に広がって、すごく甘い！ トマトってこんなに味が甘いんだ！

農家の鈴木さんが教えてくれた。磐梯町は昼と夜の温度差が大きくて、きれいな水がなくて、トマトを育てるのにいい。それが「磐梯天授トマト」と名前をつけたんだって。だからこのトマトの味は、磐梯の土と水と太陽の味。目の前の景色とつながってるんだね。

きっと、いつもスーパーで見るトマトも、野菜もお米も、このトマトと同じように、つながった土や水がある。今までそんな風に農作物を考えたことがなかったけれど、だからご飯は大事に残さずに食べなくちゃいけないんだって分かった。食べるっていうことは、その土地と農家さんが育てた命を頂くことだから。

／ 教えてくれた人 ／

## 猪苗代伝保人会



磐梯山ジオガイド

田島一博 さん

磐梯山は日本ジオパークに選ばれているだけあって、地質や地形を学ぶのに最適です。やっぱり目の前の景色の説得力というのは大きいのですから。今回登った裏磐梯の銅沼も見所のひとつ。山体崩壊の規模の大きさを感ずることができ、植物の多様さなども季節によって感ずることができます。この仕事をしていて一番大事にしているのは、お客さんに楽しんで帰ってもらうこと。そのためには怪我をさせないことです。ですから、子どもたちには時々厳しく教えることもありますよ。そして、何かを見つけて心に残してほしいです。なんでもいいんです。地質でも地形でも火山でも花でも虫でも、1つでもいいから好きなもの、興味の湧いたものが見つければいいなと思います。



上：遠くに望むのは檜原湖。四季折々の美しい自然を目に焼き付けながら踏みしめる磐梯山は、やはり格別のものがあります。

中：草木、地質、歴史に精通したジオガイドが学びをサポートします。その後の人生を変えるような学びが見つかるかも。

下：山を登り切ってようやく見渡せる本当の裏磐梯。その力強く雄大な大パノラマに、ジオパークの醍醐味が凝縮されています。

## 磐梯山登山



磐梯山の頂上を目指す登山にもチャレンジしてみてください。宝の山と呼ばれ地元の人たちに愛されている磐梯山。山岳、高原、湿地、溪谷、湖沼、さらには温泉に森林と、さまざまな要素が複雑に絡み合う山には、魅力的なコースが用意されています。磐梯山登山の王道「八方台登山口」、噴火壁直登コースの「裏磐梯登山口」、山の初心者でも魅力を味わえる「五色沼自然探勝路」など、初心者から上級者まで楽しめます。特に初心者は、山岳ガイドがいると安心です。山の魅力や山歩きのコツも、きっとたくさん教えてくれるはず。山を歩いて、自然の雄大さに身を晒し、自分のちっぽけさを知る。一皮むけた子どもたちの表情が見られるかもしれません。

磐梯山登山

×

トレッキング

偉大なる大地と向き合う



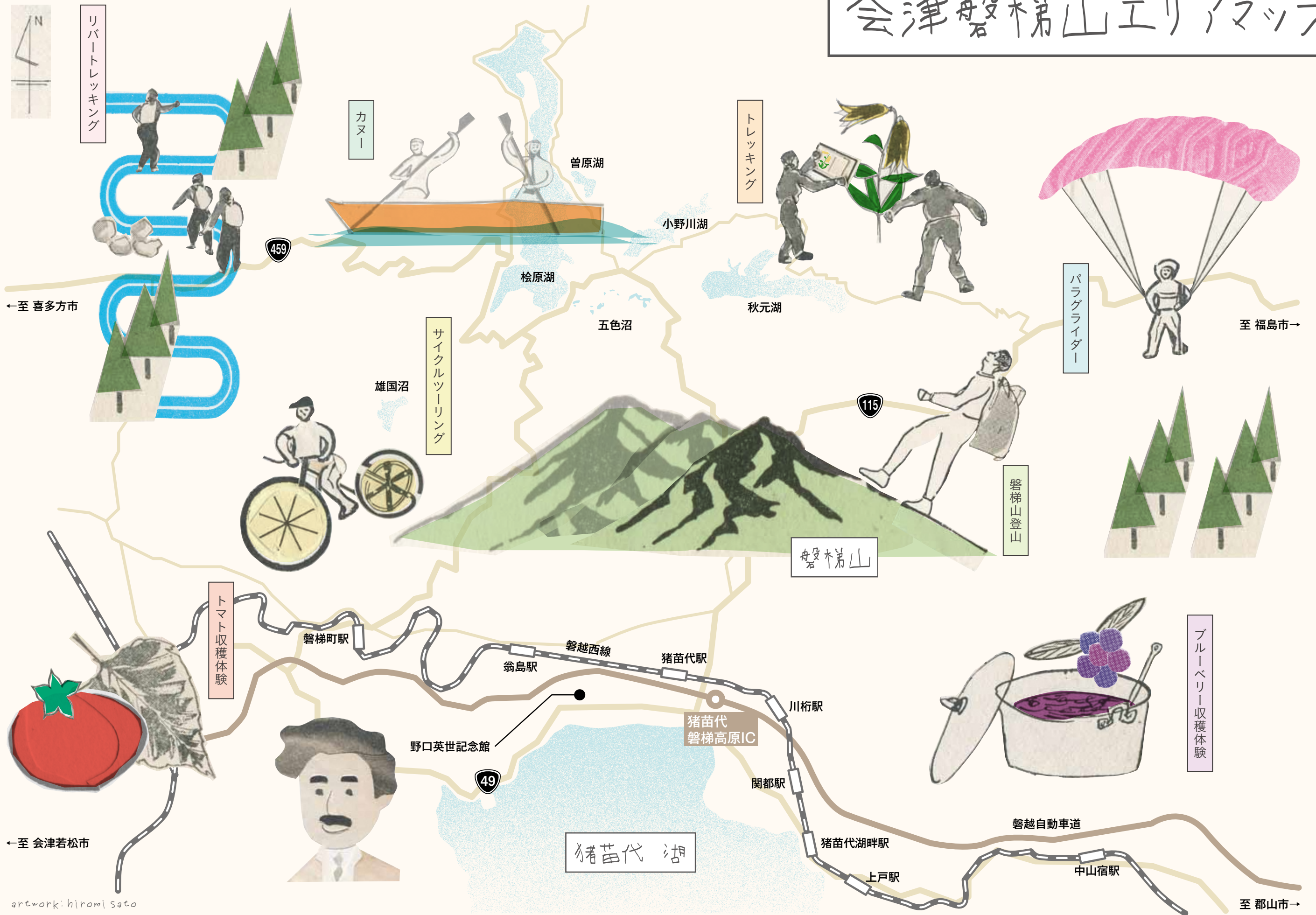
山を登るのは苦しくない。すごく楽しい。高く登るほど遠くの景色がきれいに見えるし空気がうまい。友だちと競争しながら登って行ったら先生から「ゆっくり同じペースで歩みなさい。そのほうが疲れないよ」と叱られた。もっと早く登りたいのになあ。

調子に乗って登って行ったら、やっぱり疲れちゃった。でも、先生がタイミング良く止まっていたりいろんなことを教えてくれる。先生に教えてもらったニワトコの葉は、擦るとゴムの匂いがするんだ。野いちご、リンドウ、シラタマの花も教えてくれた。先生は山のことを何でも知ってるんだ。

登り始めて1時間くらいで銅沼に着いた。磐梯山が噴火した時の山崩れでできたこと、鉄分が含まれていてこういう色になっていることを先生から聞いた。少し温泉みたい匂いがして、山の裂け目からは水蒸気が出てくる。映画の中の世界みたいだ。

この山は、いつからここになったんだろ。爆発したとき、一体どれくらいの量の土が流れたんだろ。地球がちょっとクシャミをしただけで、ぼくたちの暮らしは変わってしまった。山のことを、ぼくは今よりもう少し、知りたくなった。

# 会津磐梯山エリアマップ



編集・文 小松 理虔（ヘキレキ舎）  
撮 影 志鎌 康平（志鎌康平写真事務所【六】）  
デ ザ イン 佐藤 洋美（キャッサバ コラーージュデザイン）  
編集・印刷 渡邊 陽一（植田印刷所）

あの子、あんな顔するんだ。

あいつ、あんなことに興味あったっけ？

あんなこととするタイプじゃなかったのに。

引っ込み思案のあの子が、川を渡る女子の手を引いている。

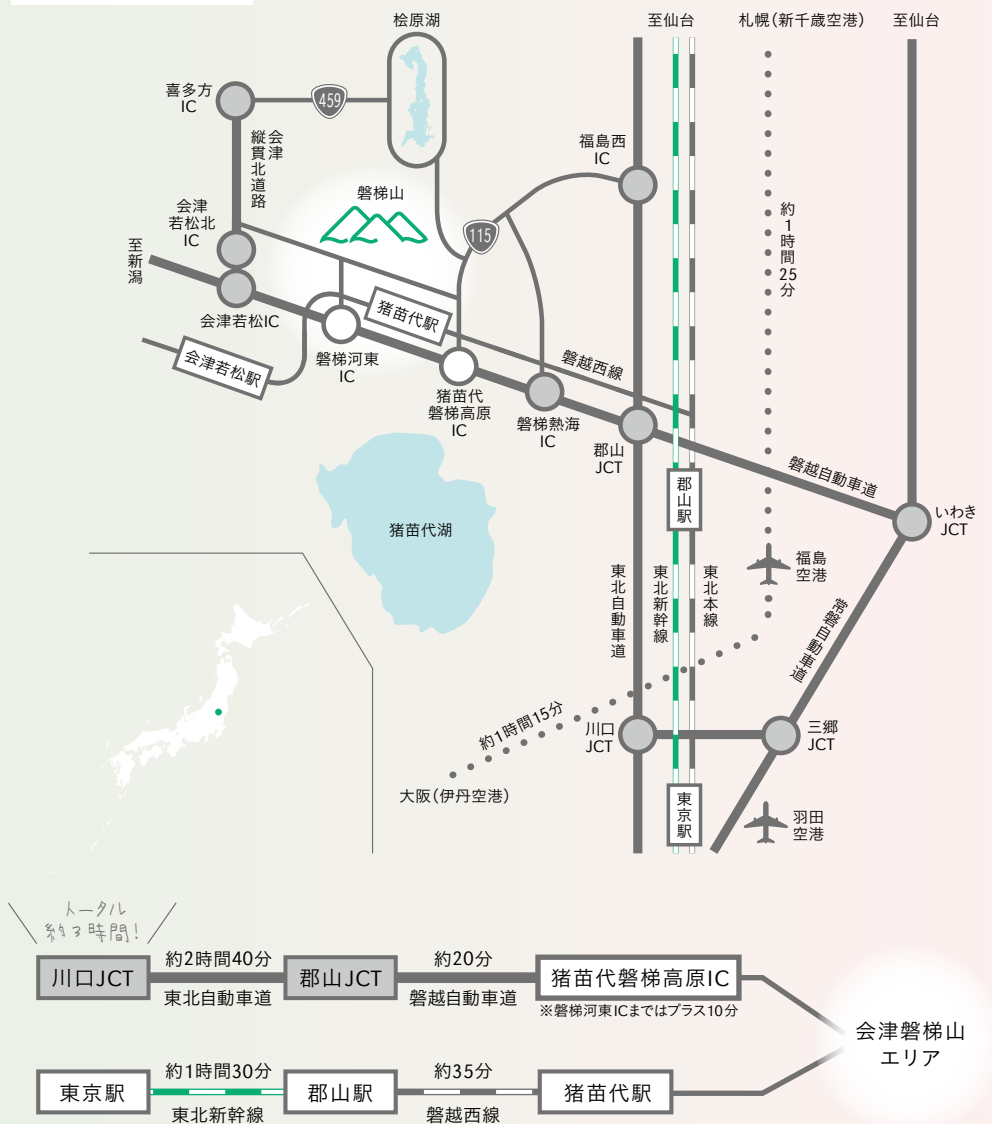
おしゃべりのあの子が、黙々と山の斜面を登っている。

自然に触れると、いつもは見せない表情がたくさん見える。  
必死の顔。無邪気な顔。大人っぽい顔。真剣で、美しい顔。  
そうだ。私は、そんな顔が見られるかもしれないと思って、  
彼らを磐梯山に連れてきた。

山は、川は、湖は、大地は、  
日々の暮らしでは見落としてしまうものを見せてくれる。  
自然の美しさや移ろい、生産者の思い、だけではない。  
圧倒的な人間の無力さ、大地への敬意。  
そしてその営みの歴史。  
かつて噴火という悲劇のあった磐梯だからこそ、  
そこには自然への畏敬がある。

今はまだ、彼らには分からないかもしれない。  
でも、疲れて眠りこけているあの子たちを見ると、  
一皮剥けるって、案外こういうことかもしれないと思う。  
あの子たちの、あんな顔を見させてくれてありがとう。  
成長の姿を、ずっとずっと、見守っていきましょう。  
私はそっと心のなかで、  
遠くに見える磐梯山に、そう語りかけた。

アクセス ACCESS



発行

2018年12月

お問い合わせ

福島県会津地方振興局  [会津地方振興局](#) 

〒965-8501 福島県会津若松市追手町7-5  
TEL.0242-29-5217 FAX.0242-29-5228  
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01240a/>

裏磐梯観光協会 TEL.0241-32-2349  
磐梯町観光協会 TEL.0242-74-1214  
猪苗代観光協会 TEL.0242-62-2048